

プレスリリース
2019年6月20日

報道関係者 各位

バイオテック情報普及会

バイオテック情報普及会 第3回高校生科学教育大賞 授賞校決定のお知らせ

— 最優秀校は貞静学園高等学校、特別優秀賞は山形県立村山産業高等学校 —

バイオテック情報普及会は、持続可能な農業の実現や食料の安定供給への貢献を念頭に、バイオテクノロジーの重要性をご理解いただくため、様々な活動を行っております。その一環として、これからを担う高校生の皆様に「植物バイオテクノロジー」と「持続可能な農業」についてより深く学び考えるきっかけとしてもらうことを目的とした「高校生科学教育大賞」を2017年に設立しました。支援対象となる科学教育活動を公募し、採択校にはその活動費用として1校につき最大100万円の支援を行っています。

第3回となる本年は、全国各地の高等学校から合計11件の応募を頂きました。小泉 望氏(大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授)、小島 正美氏(食生活ジャーナリストの会 代表)、高島 賢氏(農林水産省 消費・安全局 農産安全管理課 審査官)の外部委員及びバイオテック情報普及会 会員企業から成る選考委員会において、各校より提出された申請書類に基づき厳正な審査を重ねた結果、下記の高等学校を授賞校に選定し表彰するとともに、その活動を支援することを決定いたしました。

最優秀賞には、貞静学園高等学校の「メンデルの法則をバイオテックで証明しよう(植物育種とバイオテクノロジーの融合)」が選ばれ、バイオテック情報普及会より活動支援金として申請金額の全額となる65万円が給付されます。古典的によく知られているメンデルの法則を育種の原点に立ち戻り、バイオテクノロジーで再現、実感しようとする試みが高く評価され、最優秀賞の授賞に至りました。

また、特別優秀賞として、山形県立村山産業高等学校の「山形県産イモ類におけるバイオテクノロジーを用いた質的向上および環境保全型農業の実践に関する研究」が選ばれました。地域特性を生かした研究テーマとその具体性が評価され、申請金額の一部、50万円が支援金として給付されます。

■最優秀賞の貞静学園高等学校を表彰する授賞式

7月11日(木)14時より、貞静学園高等学校(東京都文京区大塚1-2-10)において、最優秀賞の授賞式を行います。メディア各社様の取材も可能ですので、ご希望の場合はバイオテック情報普及会 事務局までご連絡ください。

本件に関する問い合わせ先:
バイオテック情報普及会 事務局
電話:03-3525-4805
Email:secretariat@cbijapan.com

【バイオテック情報普及会 第3回高校生科学教育大賞 授賞校一覧】

■最優秀賞（申請金額の全額となる65万円を支援）

貞静学園高等学校

メンデルの法則をバイオテックで証明しよう(植物育種とバイオテクノロジーの融合)

(選考理由) 古典的に良く知られているメンデルの法則であるが、育種の原点に立ち戻り、これをバイオテクノロジーで再現し実感して理解しようとする試みが高く評価された。

■特別優秀賞（申請金額の一部、50万円を支援）

学校名	活動名	選考理由
山形県立村山産業高等学校	山形県産イモ類におけるバイオテクノロジーを用いた質的向上および環境保全型農業の実践に関する研究	地域特性を生かした研究テーマであり、研究計画に具体性がある。地域の農産物に対する意識の高まりや同様の課題を抱える地域等への波及効果も期待できる。

■優秀賞（申請金額の一部を支援）

学校名	活動名	選考理由
京都府立桂高等学校	皆に最高の笑顔を！！低糖質米開発研究への道のり	問題の着眼点及びこれまでの取り組みが高く評価された。また、新品種開発につなげたいという熱意が感じられた。
広尾学園高等学校	シロイヌナズナの変異体CaD428を用いた開花制御機構の解析	高度な内容で計画性に優れており、学会発表を目標にするなど意欲的な点が評価された。
福島成蹊高等学校	藻類を活用した汚染水中の放射性物質の除去を目指して	継続して課題に取り組みされており、よく練られた研究計画で、将来的に耕地を再生するという試みが評価された。
千葉県立葉園台高等学校	私たちの街に薬草園を！！葉高薬草園プロジェクトパートⅡ	模型を使った再現実験などアイデア満載でユニーク、かつ意欲的な研究計画が評価された。

詳細は右のウェブサイトをご覧ください。 <https://cbijapan.com/education/>

以上

※ バイオテック情報普及会(英名:Council for Biotechnology Information Japan、CBI Japan)は、植物科学やバイオテック作物の開発企業で構成する国際組織「クロップライフ・インターナショナル(本部ブリュッセル)」傘下の任意団体で、2001年10月1日に設立されました。本会は持続可能な農業の実現や食料の安定供給への貢献を念頭に、サイエンスベースで透明性ある許認可システムの構築を支援するための活動や幅広いステークホルダーの皆様にバイオテクノロジーの重要性をご理解いただくための広報活動を行っています。

<https://cbijapan.com>

<バイオテック情報普及会 会員会社>

シンジェンタジャパン株式会社、ダウ・アグロサイエンス日本株式会社、デュポン・プロダクション・アグリサイエンス株式会社、バイエル クロップサイエンス株式会社、BASF ジャパン株式会社